

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所の 特徴	事業所の理念【「思い」暮らし「絆」を支援する】を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。事業所は長年、地域の人々に親まれた集会場を改修し併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園松尾の家	管理者	志田彰大		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	1人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・次年度体制変更もあることから、サービス評価の実施に対して、事業所内で改めて学ぶ機会を持ち、実施の意味や意義について知る。考える。	・サービス評価の実施について、事業所内での勉強会の開催はできなかったが、今後の管理者候補として育成している職員に対してはサービス評価の実施方法や流れ視点などを伝えながら実施することが出来た。	・個別評価は管理者として個を知る良い機会になると思う。 ・複数の項目で「ほとんどできていない」の返答があるが、着任後間もない職員の返答の傾向か？もしくは他の職員の返答も入っているのか？ ・年に1回の外部評価になるが、事業所の状況を知る機会は、運営推進会議が主な機会になる。同じ建物内の包括でもその状態なので、地域の方にはなおさらなのではないかと思う。運営推進会議で評価項目の内容報告がないと、結局改めて問われても「わからない」としか返答ができない。 取組報告する時間があっても良いのかと思う。そうすることで、次年度の評価を考える根拠になってくると思う。	・事業所評価、総括表の改善計画に対しての取り組みが伝わるよう運営推進会議の内容について再検討を行う。 ・サービス評価、運営推進会議、ご利用者支援、事業所の取り組みが運動できる仕掛け、仕組みの検討実施
B. 事業所のしつらえ・環境	・新型コロナウイルス感染症5類引き下げのタイミングで外部の方の入室制限やボランティアの再開について検討を行う。 ・感染症予防対策を優先(効率化含め)した環境の見直しを図る。	・コロナ禍前の状態には戻せなかったが、利用制限をしていた併設の井戸会議所については、通常に近い状態で利用が出来るよう井戸会議所管理運営委員会にて協議を行った。現在地域の方はほぼ制限なく利用していただけている。 ・事業所内の入室制限については短時間の見学などは再開できた。ボランティアの再開については今年度実現ができなかった。 ・環境の見直しは実施したが外部の方からの視点はなく事業所内で検討を行ったのみにとどまった。	・正直、新型コロナウイルス感染症がまん延してから高齢者福祉施設には用事がないと入りにくい入ってはいけないとの雰囲気はある。 ・地域の方が入りやすい雰囲気や交流の機会を増やそうとするのであれば、事業所に来る理由付け(行事など)企画などではどうか？ ・松尾の家の中に入る機会がなくなったので設えや環境については分かりづらい部分がある。	・事業所の設え・環境を知って頂くために運営推進会議の場において事業所内の見学会を実施し、客観的なご意見を伺い環境改善を図る。
C. 事業所と地域のかかわり	・ご利用者を取り巻く地域、今までの関係を意識し事業所がご利用者と地域との橋渡しができるようになる。(継続) その中で事業所としてもご利用者と地域との繋がりに関わり、事業所と地域が繋がる(顔見知りの関係)ようになる。 ・事業所と地域が繋がることで松尾の家の事業内容や取り組みを知って頂く機会をもつ	・一部のご利用者に対しては、今までの繋がりに関わり、ご本人を地域で見守るような支援が出来るようになった。今後も同居、高齢世代を中心として地域との繋がりに関り、深めていきたい。 ・事業所と地域が直接つながる機会を持つことはできなかった。事業所の取り組みを知って頂く機会としては毎月数回のブログ発進の身にとどまった。	・やはりほかの項目同様に見えにくい部分が多い ・イベントに参加しているかいないかで言えば1回参加していれば「はい」になる。 ・地域の行事もほとんど廃止や縮小されている状況。「もちつきやどんど焼き」など	・ボランティア再開の検討 ・ご利用者と共に地域行事への参加や可能な範囲での協力
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・個別地域ケア会議の開催の実現。地域ケア会議を通して地域資源を知り、本人の暮らしを支える取組みや協働についての検討・実践を行う。	・個別の地域ケア会議開催の実現はできなかったが、ご利用者に関わりのある地域住民やお米屋さん、接骨院、郵便局などと直接個別に連携を図り、ご本人が抱えている問題の解決や実態把握をするといった実践は行えた。	・外部評価で問われたときに判断する基準が分からない。材料がない。常の会議で取り組みの項目が開ければ変わってくると思う。特に「C.事業所と地域とのかわり」「D.地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み」の項目は分かりづらい。	・個別事例を通してご利用者と地域、今までの繋がりを大切にしてネットワークづくりを実践。 ・事例報告会の実施
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議の内容や開催方法について、ご意見を伺いながら工夫改善を行う。	・令和4年度のご意見を踏まえながら、報告内容や写真などを活用し工夫改善を行ったが、以前「分かりにくい」「見えない」といったご意見をいただいている。次年度の運営推進会議開催方法や内容については再考していきたい。	・そもそも利用者が地域と関わりたいと思っているのか疑問 ・運営推進会議のメンバーが固定されているのはいいかがなものか？ ・メンバーをみても松尾学区に偏っている。嵐山東、松陽学区の方の参加があればよい。 ・他の方の意見を聞く事が出来る会議であればよい。 ・包括支援センターの取組で、小規模多機能が知りた情報や取り組みたいことは取組んでいることあると思う。一緒に活動をしたらよいのではないのか？	・運営推進会議の開催方法や内容についての検討、修正、実践 ・多くの方に参加いただける運営推進会議となるよう工夫改善を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	・災害時事業継続計画の作成 ・運営推進会議を通して、松尾の家だけで完結しない計画作成や役割の検討を行う。	・事業継続計画の作成はできたが、運営推進会議を通して地域を含めた計画作成までには至らず。次年度以降も継続して取り組む必要がある。	・地域の防災訓練に参加・参画しているかと問われれば、松尾学区の自主防災訓練に1度参加していたので「はい」となる。そもそもの質問項目に課題があるように思う。書式が決まっているとのことだが。	・災害時事業継続計画の見直し(まずは拠点レベルでの防災、災害対策の見直し) ・訓練の実施